令和６年度　自己評価報告書

令和７年６月２日

（学）小川学園　認定こども園土気中央幼稚園

１，本園の教育目標

やさしい子・じょうぶな子・がんばる子を目指す理想のこども像として掲げ、多様な体験を友達と共有しながら楽しく過ごす教育・保育を提供する。

２．本年度重点的に取り組む目標・計画

認定こども園に移行し、職員の働き方や配置が変わったのを機に、指導カリキュラムを細かく見直し、より質の高いものにしてくとともに、小学校との接続期の内容もコロナ禍を経て、以前より充実したものにしていく。また、令和７年度の千葉市幼稚園教育研究会（公開保育）を念頭に、園内研修の充実を図る。また、遊び研究を行いリトミックや廃材遊びを通して遊びを広げていく。

●具体的な取り組み

1. コミュニケーションマネージャー・遊び研究・研修・育成・幼小接続等のリーダー職を創設し、それぞれの分野ごとのマネジメント強化、保育の質の向上を図った。
2. 地域の小学校･各児童波立支援事業所･県立高校との協力体制の構築を模索し､情報共有を行った。
3. 親子教室や園庭開放などの既存事業に加えてこども誰でも通園制度の試行事業に参画し、千葉市の子育て支援に積極的に協力した。

３．評価項目と取り組み状況及び評価

	評価項目	具体的な取り組み	評価
㋐	各学年の指導カリキュラムを見直し、より質の高い保育を目指す。 また、年長の指導においては幼小接続の内容を見直す。	・指導カリキュラムの見直しをし､学年が上がった際に活動内容のレベルが下がらないように、各学年のカリキュラムのすり合わせをしっかり行った。 ・近隣の小学校（３校）を訪問や体験授業への参加などで交流することを入学への期待に繋がる機会とした。小学校と連携して互恵性のある交流活動となるよう担当者間の打ち合わせを行った。また､小学校教諭との合同研修や話し合いの機会を設け､子どもの姿を共有するなどして､アプローチカリキュラムの作成に積極的に取り組んだ。	A
㋑	認定こども園に移行した初年度として、教職員の指導体制を見直し、一人ひとりに目が届き無理のない体制を整える。	・主幹､コミュニケーションマネージャーが全クラスを見て回ることが出来、各クラスの良さや、改善点を共有、解決できるようになった。また、より多くの目で子どもを見ていくことができるようになった。 ・預かり保育の時間の保育の質の向上を図るために、預かり保育の年間カリキュラムを作成し、	A

		職員との連携会議を年６回行った。また、研修に参加したことで今の子どもたちに何が必要かを考えながら、日々の預かり保育を行うことをより意識するようになった。 ・シフト制になった為、毎日の朝礼や終礼で職員配置を確認し、人員不足がないように職員全体で把握した。	
㋐	令和７年度の教育研究会（公開）を念頭に、園内研修の内容を新しくし、計画・実践・評価・改善を実行する。	・園内研修の見直しをし、姉妹園の園内研修の仕方や、外部講師の研修を受け、新しい形を取り入れ、実践した。園内研修の振り返りの方法も毎回検討し、よりよいやり方を研究した。	B
㋑	遊び研究のリーダーを中心に、発達過程に見合った遊びの研究・開発、年間指導計画への遊び・生活の落とし込みをする。	・職員間でアンケートを取り、リトミックとリフォーム遊び（廃材遊び）を新しく取り入れた。リトミックでは他学年と一緒に行うことで交流を楽しみ、音楽に合わせて様々なリズムの動きが出来るようになってきた。 ・リフォーム遊びでは身近に感じられるようにリフォーム部屋を作り、色々な廃材に触れられるようにした。しかし、素材の扱い方に対しての知識が少なかった為、ただテープで貼り合わせるだけになっていた。職員で素材の研究をし、基礎を教えられるようにしていきたい。	B

４．総合的な自己評価

評価	自己評価
A	認定こども園に移行した初年度ではあったが、職員配置を工夫し、多くの目で子どもを見ていくようにした。園内研修や学級経営案では明確な目標やねらいを設定し、日頃の取り組みや成果、保育活動の設定理由や予想される子どもの成長などを、分かりやすく記録に残すよう改善されている。どの保育者も、子ども一人ひとりの実態をよく見ているが、保育活動ごとに明確な目標やねらいが曖昧なことがあるため、引き続き指導が必要である。指導計画は子どもの実態に即した内容にするよう努め、合わないものは改善し、他学年とのすり合わせも行うようにした。学年内のコミュニケーションは比較的取れているが、学年の壁を越えて、職員それぞれの思いのすり合わせを行い、コミュニケーションを更に良くしていく必要がある。

５．今後の課題

・遊び研究を継続して行い、素材の研究をし、リフォーム遊びを充実できるようにしていく。
・子どもの発達過程を見直し、サーキット運動の内容を充実できるようにしていく。
・新人育成カリキュラムを見直し、教え忘れ、教えられ忘れがないようにしていく。
・園内の畑や花壇を活用し、もっと身近に自然を感じられるような環境を整えていく。
・園内研修の進め方を話し合い、令和７年度の公開保育に向けて計画していく。

○令和６年度実習受け入れ校（受け入れ人数）※順不同

・千葉こども専門学校　３名	・江戸川大学　１名
・武蔵野大学　１名	・千葉経済短期大学　３名
・淑徳大学　２名	・東海大学　２名
・城西国際大学　１名	・清和大学短期大学部　２名
・千葉明徳短期大学　２名	・和洋女子大学　３名